

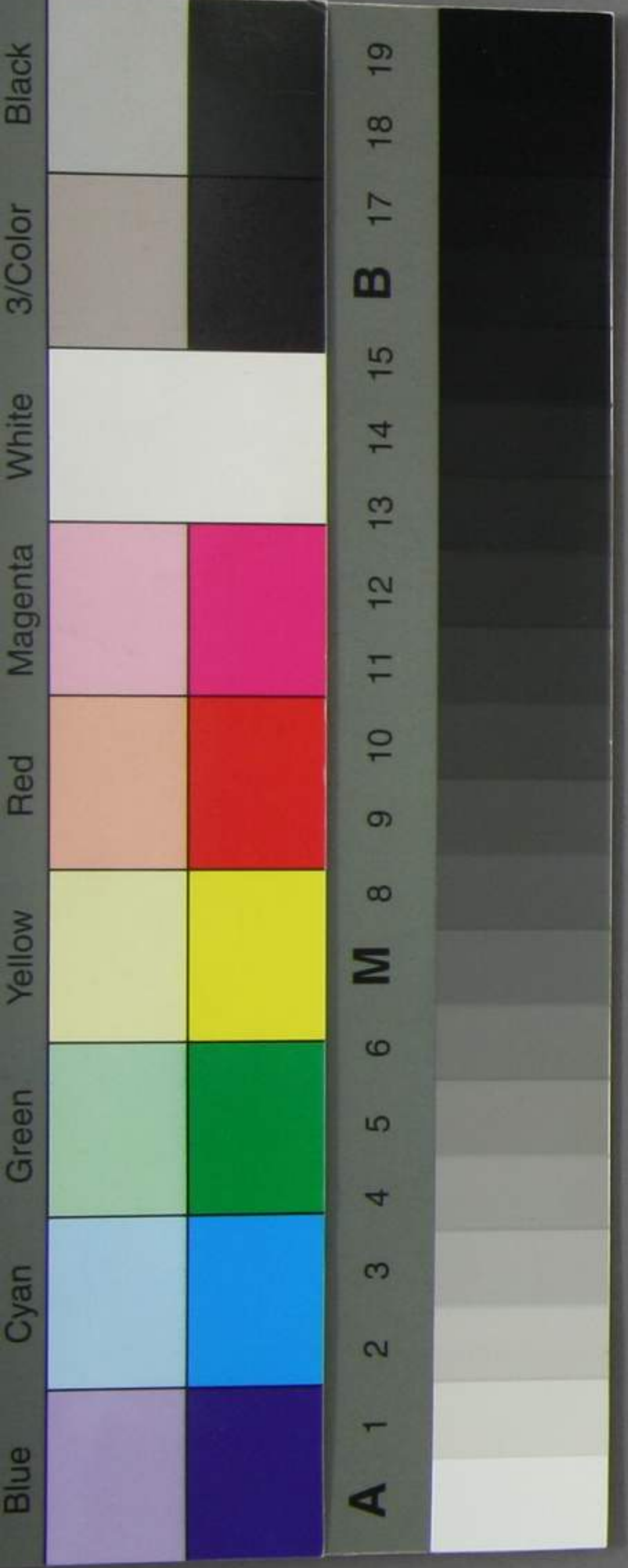
13
再

114
A3617
14

大正十一年四月
張侯爵郵寄



夫東京ノ火災タル或ハ一時ニ数千萬
 可カラス故ニ僅々十数年ノ計表ヲ以テ
 平均數ヲ算出セン_一抑亦難シ僕茲ニ
 一新_一保險法ヲ案出シ以テ此危險ノ中
 ニ保險スル_一ヲ得セシメント欲ス此法ニ
 因リ燒込ニ罹ル家屋所有主ニハ保險補
 助金トシテ無利足貸下金ヲナレ而シテ二
 十五年賦(毎三ヶ月百分一ツ)ヲ償却セシ
 ムヲ以テ之ヲ返納セシム今尤ニ該法ト通帯
 保險法トノ得失ヲ比較セシニ通帯ノ保險
 法ニテハ若シ燒込金百圓ナレハ又百圓ノ
 歳入ヲカス可カラスト雖_一新法ニ據レハ



百四ノ焼ハ一部ハ賦金ニ依リ一部ハ二十
五年賦貸下金ノ入高ヲ以テ補充スルヲ得
ヘシ而シテ此賦金ノ多寡ハ貸下金ニ見
込ヘキ利子高ニ因ルモノニシテ一割ナレハ
六拾三四六拾九銭壹厘八毛四又一割ニ分ナレ
ハ六拾八四六拾貳銭七厘四〇〇四ヲ要ス可シ
故ニ此法ニ據リ通常保險法ニ於テ要スル
賦金凡ソ三分ノ一(即チ一割ノ利子ナレハ
一割六分三厘一割貳分ノ利子ナレハ三割壹
分四厘)ヲ減スル割合ナリ今之ヲ例セシメ年
年壹萬四ツノ焼ハアルモノトナシ貸下金
ノ利子ヲ一割ト見做シ算スレハ賦金ハ六
千三百六十九四拾八銭四厘外ニ二十五年賦

返納金口言山ヲ年々得ヘキナリ
故ニ保險補助金壹萬四ヲ拂フニハ賦金
入高ヨリ六千四ヲ拂ヒ餘ノ不足分四千四ハ
一割利金ノ証券ヲ以テ拂フヘシ(此四千四
ハ証券ハ八年々四百四ノ利子ヲ要ス)然レ
テ上ノ三百六拾九四拾八銭四厘ハ尚使用
ニ供シ得ル殊高ナルヲ以テ之ヲ元トシ二
十五年間一割ノ利子ヲ附シ利倍増加ノ
法ヲ以テ二十五年ヲ積メハ終ニ四千四ヲ悉
皆償却シ得ヘキナリ何トナレハ壹四ノ金ハ
利倍増加ニ依テ二十五年間ニハ拾四八拾
三銭四厘七毛〇五九四ノ高ニ至レハナリ又
實際上一就テ之ヲ云ハハ右壹萬四ノ焼

此ニ對シテ賦金歳入ヨリ六千三百六拾九圓
拾八錢四厘ヲ拂ヒ其不足分三千六百三拾
〇八拾壹圓六厘ハ一割利ノ附証券ヲ以
テ拂フナリ然ル中ハ此二十五年賦貸下
金ヨリ生スル四百四ツハノ返納金ヲ証券
ノ償却年金ニ使用ス可シ借又此証券
三千六百三拾四八拾壹圓六厘ハ第一ヶ
年目ニ於テ其一割三百六拾三四〇八錢壹厘
六毛ノ利子ヲ拂フテ要スルニ自返納金
四百四〇ヨリ差引三拾六四九拾壹圓八厘
四毛ノ殘金ヲ初年元金償却ノ類トナス
テ得ヘシ然レテ此償却シタル元金ノ
利子ハ一ヶ年目ヨリ償却年金ニ換

込テテ初ルニ依リ年々ニ増加シ利倍増加
規則ニ從テ拾モ二十五年間ニハ全負債
高三千六百三拾四八拾壹圓六厘ヲ返シ盡
ス至ルナリ
右保險補助金ハ再築ノ家産ヲ抵當トナ
スヲ常トス若シ再築セサル者ニハ他ノ公債
証券等ノ確ナル抵當ヲ以テ之ヲ貸附ス
若シ抵當無キ中ハ右金ヲ保險局ニ預リ置
其利子丈ケテ與フ
深險局ハ成ヘリ歳入ヲ以テ補償金ニ充
テ抵當証券ノ発行高ヲ少フスルヲ
カムヘシ但シ施行ノ費用トシテ國庫ヨリ
百萬圓ヲ借り受ケテ二十五年ノ后マテハ

漸次八分ノ利ヲ附シ返納スル見込ナリ
来年中ニハ少ナリモ東京ニ保陰ヲ施行
ニ成可ク速ニ他ノ二府二港ニ及ホスヘシ